

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原一丁目2番4号
自己評価作成日	平成30年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成30年11月15日	評価結果確定日	平成30年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. アットホームな雰囲気、スタッフは入居者様や御家族と信頼関係を築ける様心掛けています。
2. 医療との連携を図り入居者様と、その御家族の意思を尊重し最期まで支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームライフエイド柏原ミルテは、開設から12年を迎えている。事業所は建物の1階にあり、2階部分からは有料老人ホームになっている。周辺には歩いて行ける距離に交番や小学校、スーパーなどがあるほか、地域包括支援センターなど恵まれた社会資源がある。医療法人が経営母体であり、365日24時間安心の医療体制が整っているため、医療面や防災面でのバックアップ体制も充実している。職員は利用者へ集団生活を押し付けず、自分のペースでゆったりと過ごし、一人ひとりの能力や個性を引き出せるよう取り組んでいる。また、職員の事情を汲んだ働き方への配慮や研修の充実によるスキルアップを図り、管理者を中心に全職員が結束している明るいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で理念を共有し実践に繋げている。	「地域との交流を図り安心して生活できる環境作りを目指します」という理念に基づき、利用者に合わせた言葉遣い、対応を心掛けています。月1回のミーティングでは、職員間で理念の取り組み状況について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者がご高齢になり日常的には交流は難しくなり無理のない範囲で行事に参加している。	地域の清掃活動や神社の鏡開きなどに参加しており、地域の一員として日常的に交流できている。事業所のイベント時も案内を配布し、顔や手のお手入れに関する「いきいき美容教室」を開催するなど、地域とのつながりをさらに深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法の周知への為スタッフや地域のご家族に対してホームで勉強会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実際や状況を経営報告しテーマを持って意見交換を行っている。	運営推進会議は、家族や民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月ごとに開催している。事業所の現状や取り組み内容について報告し、参加者からの意見、アドバイスをを受け、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一回運営推進会議に参加して頂き施設の現状を把握してもらっている。包括の方からは地域の情報を受けている。	地域包括支援センター職員とは、日頃からホームの運営状況や課題についての意見交換、情報提供をしており、顔なじみの関係を築いている。行政の担当者とも、今後は会議の案内を持参するなどして、顔の見える関係を作ろうと取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束をしていないが建物の構造上やむえないので施錠している。ご家族には入所時に説明し同意を得ている。	事業所周辺の交通量などを加味して、利用者の安全確保のため、ご家族の同意を得て、玄関は施錠している。身体拘束が利用者に与える影響について、研修会や職員ミーティングの中で、全職員が理解できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し、より知識を高め虐待防止に注意を払っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度の研修会に参加し認識している。問い合わせ等ある時にはパンフレットを活用し説明することができる。	内、外部の研修で、権利擁護の制度について学ぶ機会を設けている。制度の資料を用意し、必要時には利用者、家族に説明を行い、関係機関を紹介できる体制を整え、制度が活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に見学や体験等を行っている。入居希望の方、そのご家族の方に不安等あれば説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で日頃よりコミュニケーションを図り意見や要望の交換会を行いその都度取り入れる様努めている。	面会時や家族会、運営推進会議の時に、家族とのコミュニケーションに努めている。利用者の個性や家族の意見が反映できるよう、意見や要望には迅速に対応しており、実際に食事時間を見直すなどの対応もしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中や月一回のミーティングで意見、相談があれば聞き、その都度対応している。主任会においても意見交換を行っている。	毎月のミーティングで、職員の意見や提案を出し合い、それらについて検討し、できるだけ速やかに実現できるよう取り組んでいる。また、日常の業務の中で意見を述べやすい雰囲気作りを心がけ、普段から意見交換が活発にできる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがスキルアップを目指し研修会、勉強会への参加をすすめ、やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規職員に限らず全職員に対しても年齢、性別で排除しないようにしている。研修会参加や自己実現のための資格所得の際、勤務調整を行うなど配慮している。	職員の募集、採用については、年齢や性別、資格などの制限はなく、人柄を優先している。採用後は内、外部の研修会で学ぶ機会を設け、職員が自らの適正、志向、能力に応じて、キャリアアップを図ることができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内勉強会や外部で人権や尊厳について研修会に参加し、入居者の方への尊厳・人権やプライバシーについて検討する機会を設けている。	利用者の人権を守る介護の在り方について、内、外部研修会へ参加し、利用者の個性や価値観に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。利用者への言葉遣いなど、人権を尊重した対応について、職員間で話し合っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内や外部の研修に積極的に参加し能力向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の事業所と相互交流や勉強会を通してサービスの質の向上について話し合い、意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困りごと、要望があれば耳を傾け心身共に安心した生活が出来るよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安な気持ちに寄り添い話しやすい環境作りを心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の現状を把握し、他職種とも連携し必要としている支援を提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除など生活の中で、出来るだけ共同で作業を行い、暮らしを共にする者同士の関係を築き安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族の面会時には近況報告を行って いる。行事等の声掛けを行い参加して 頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、ご友人など来られた際お話がで き、ゆっくりと過ごせる環境の提供に 努めている。	利用者の重度化でお気に入りの場所や行きつ けのお店へ出掛ける機会は少ないが、家族や 親戚、友人などが訪ねやすい雰囲気となるよ う心掛けている。昔の写真、地図などを見 て、馴染みの人や場所を思い出してもらえ るような機会も作っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士、同じホールにてコミュニ ケーション、レクリエーションに参加 され入居者が笑顔で過ごせるように声 掛け見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再入居の相談や関連施設への入居等は 面会に行かせて頂いたりし対応してい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人が自分らしく生活できるよう、 希望や意見を日頃から聞くようにして 可能な限り意向に添えるようにしてい る。	職員は利用者、家族とコミュニケーションを 取りながら、思いや意向を聴き取り、職員間 で情報を共有している。意向表出が難しい場 合は、家族の面会時に相談し、職員が利用者 の表情や仕草から思いに近づく努力をしてい る。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族からの情報の聞き取りやアセス メントを用いて、本人様それぞれに 合った生活環境の提供に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	本人様の体調に合わせ日課の変更をし たり自己決定ができるよう支援してい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様ご家族様の意向をもとに、カンファレンスや担当者会議を行い課題設定や目標を立てている。	担当職員やケアマネジャーが利用者や家族から意見を聴き取り、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認している。その結果を踏まえ、排泄の改善方法や居室の環境整備など、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を定期的に作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々何かあれば記録し、その場にいるスタッフで話し合い共有し、再度ミーティングで検討し実践、計画等に反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に応じ対応できるよう、職員と連携を図りながら、柔軟な支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会、民生委員、包括センターの方に参加して頂きホームの現状を把握して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は、かかりつけ医が協力病院のため緊急時の受診、受診に行けない時は必要に応じ往診を受けて頂いている。	利用者の主治医と協力病院のかかりつけ医の連携が図れるよう、受診の際には職員が同行し、医療情報を共有している。月2回の訪問診療、訪問歯科を活用し、通院が難しい利用者も適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護職員への報告や相談が出来ており、小さな変化や気づきに適切な看護や医療の提供が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院と連携を取り、入退院時の情報交換を行っている。又入院中であっても本人様の様子や身体状況の把握、退院後の生活について情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、御家族、スタッフ本人を交えて十分に話し合いを行い、看取りを含め今後の方針をスタッフ間で共有している。	終末期については、契約時に利用者、家族に説明し、意見や要望を聴いている。最期をどこで過ごしたいのか、利用者や家族の思いを尊重し、主治医と相談しながら、安心して終末期を迎えることができるよう取り組んでいる。職員に対して、救急法や看取りについての研修も実施している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回急変時に備えたAED研修会、心肺蘇生等の勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回施設において消防訓練、災害時訓練を行い、非常時に速やかに安全に避難誘導できるようにしている。	消防署の協力と指導を得て、年2回夜間想定避難訓練を実施している。通報装置や消化器の使い方、誘導経路を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導できる体制を整えている。今年は水害などを想定した、避難訓練も実施している。米や飲料水などの備蓄も十分用意している。	非常食だけでなく毛布などの備品も備蓄し、利用者の服薬状況や介助方法が記載された災害用カードを作成するなど、利用者が安全に避難した後も、安心して過ごせるような体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言動を否定しないように、言葉かけや対応を心掛けている。	接遇をベースとした研修を取り入れ、職員は利用者一人ひとりの人格や誇りを尊重し、プライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。また、日々の中で言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心して暮らせるよう支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思い、希望の表出、自己決定が出来ない利用者様が多く、日々の表現変化等を察知し、見落とさないように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、職員側の業務を優先にしないよう柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の訪問理容や、年に2回訪問美容教室を利用し、御家族や本人の意向に沿うように支援している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり入居者に合った食事形態を提供している。食器のすすぎや台拭きなど出来る事を一緒に行っている。	食事は建物共有の厨房で一括調理しているが、裏の畑で採れた野菜や利用者家族からいただいた食材を使った献立にするなど、楽しんで食事をしてもらえよう取り組んでいる。後片付けやラップがけなど、利用者の能力を活かせるよう支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートに食事量、水分量を記入し把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより出来るだけ自分でできるようにしている。不十分な所はスタッフがやっている。定期的に歯科往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない方には声掛けを行いトイレ誘導をしている。オムツ交換の方は、定期的に交換し清潔保持に努めている。	基本的にはトイレで排泄することを心がけ、職員は利用者の生活習慣や生活チェックシートで排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導を行い、自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握し、水分補給にも努めている。高齢、重度の方が多く、運動への働きかけが困難な為、薬剤でのコントロール及び、腹部マッサージで対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度化の為、一人ひとりの希望に添えないが、入浴剤を使用したりして対応している。	入浴は週2回を基本としているが、希望があれば随時対応している。利用者の状況や希望に合わせ、時間帯をずらしたり、入浴剤を使ったりして、入浴を楽しんでもらえよう工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて、気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬している薬の目的や効果、用量について把握している。用量や内服の変更時はその都度伝達し服薬支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化している為、今まで出来ていた役割ができなくなっているが、毎日1時間程度、レクリエーションに参加して頂き、楽しく過ごせるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中に外出支援を計画したり、近くの小学校や裏庭に行き季節を感じれるよう支援している。	気候の良い時期を利用して、季節折々の花々を見にドライブをしたり、散歩や近くの珈琲店へ出掛けたりして、利用者の生きがいに繋がる外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の意思での買い物や金銭管理を出来る方が現在いない為ホームで管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の様子が気になる時は電話で話して頂き、安心できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて生活できるよう、明るさや空調、障害物に配慮している。また、毎月季節に合わせた掲示物や花を飾っている。	対面式のキッチンカウンターや和室からは、利用者や職員の様子がよく見え、穏やかに時間が流れる安心できる空間である。トイレは3カ所に設置され、介助スペースも十分確保されており、車いすでも介助動作が楽に行えるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士がコミュニケーションを図りやすいよう、席の工夫をし、独りで過ごしたい時には、落ち着いて過ごせるよう場所の提供や居室内への案内を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前家で使っていたタンスや椅子等馴染みのある物を置いて、居心地良く過ごせるよう環境作りをしている。	利用者の愛用している桐タンスやイス、仏壇が置かれ、これまでの生活環境や好みにあった居室作りがされている。利用者が手作りした作品、家族との思い出の写真なども飾られ、心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すり等を設置、自立した生活を送れるような工夫をしている。居室内も安全に移動できるよう、また防災にも気を配り環境整備をしている。		